

スポーツ東京案内事業【玉川保育園】実施報告書

実施日	2026 年 7 月 22 日（水）
場所	玉川保育園
参加者	2 歳児 3 人、年中 16 人、年長 18 人、先生 6 人
担当講師	小川、横山

1. 実施内容

写真を見せながら、園児にインディアカの概要や用具について説明した。その後、横山・小川がアンダーパスとサーブの見本を示し、参加者は対面で4～5人ずつ横に並び、サーブの練習を行った。

続いて、対面のまま横山・小川が羽根を高く持ち、園児が上から打つアタック練習を実施した。保育園児（4歳・5歳）を対象とするため内容の設定には工夫が必要であったが、的入れ、羽根飛ばし、羽根運びなど、遊び感覚を取り入れた活動を中心に構成した。さらに、ポイントインディアカ、羽根片手持ちバランスリレーを行い、遊びの要素を取り入れながらインディアカに親しめる内容とした。

2. 結果・成果

先生方も含め、園児は終始とても楽しそうに参加していた。園側からの特別な要望はなかったため、的入れ（サーブ・アタック）を中心に行ったところ、園児たちは予想以上に上手に羽根に触れることができ、サーブやアタックも楽しく体験できていた。特に年長児は運動能力が高く、羽根を打ち返すことができる場面も見られた。子どもたちの笑顔から講師側も大きな力をもらい、先生方も一生懸命フォローして下さったことで、充実した講座となった。

3. 課題・改善点

年中児（4～5歳）にとっては、アンダーパスや下から打つ動作が難しい様子が見られた。一方で、上から打つ動作の方が取り組みやすそうであったため、年齢に応じて練習内容や打ち方を調整する必要がある。

また、今回は横山さんが持参したポイントインディアカの道具一式が非常に役立った。今後、同様の講座を実施する際には、東京都インディアカ協会としても同様の道具を準備しておくことが望ましい。

4. 次回に向けた対応

- ・ 年中以下のクラスでは難易度が高い可能性があるため、対象年齢や活動内容を事前に検討する。
- ・ 次回依頼があった際には、ポイントインディアカ用の道具一式を作成・準備し、そのための経費については事前に協会から負担していただきたい。
- ・ 説明用写真については、何度も使用できるようにパウチ式の教材を準備するとよいのでは。
- ・ 小さい子どもたちには、写真や絵を用いた説明が効果的であったため、今後も視覚的に分かりやすい教材を活用する。
- ・ 天井が低い場所での対応については今回の経験を活かし、今後も会場環境に応じた進行を行う。
- ・ 子どもたちの様子を見ながら、内容や進め方を臨機応変に調整できるようにする。

5. まとめ

今回の講座では、園児が楽しみながらインディアカに触れ、身体を動かす楽しさを体験する機会となった。年齢によって取り組みやすい動作に違いが見られたことから、今後は対象年齢や会場環境に応じて内容を調整し、より安全で分かりやすい進行を行うことが重要である。また、先生方の協力を得ながら、怪我もなく滞りなく終了できたことは大きな成果であった。園児たちが成長した後もインディアカに親しみ、先生方にも継続してプレーしていただけるよう、今回得られた成果と課題を踏まえ、次回以降も子どもたちが楽しく参加できる内容づくりを進めていきたい。最後に、今回の講座にあたり、発案から内容の検討、事前の下見、当日の進行まで中心となって取り組んでくださった横山さんに、心より感謝申し上げます。

※園児に提示した説明写真



※実施風景



記載日：2026 年 8 月 3 日

記載者：小川

参考記述：横山